

わたしたちの手・足の関節は、物をもつときや歩くときに、まげのばしを行います。関節の中では、骨をおおう軟骨が、もう一方の骨の軟骨と向きあって接していて、なめらかな軟骨同士がすべりあって関節はスムーズに動きます。しかし、いつも体重などの圧力が加わって動きづづけるので、軟骨はこすれあってすり減ります。若いうちはすり減っても自然に回復しますが、年をとるとすり減った軟骨は十分には回復せず、次第に軟骨の下の骨がむきだしになり、骨同士がこすれあって関節は変形します。これが変形性関節症という病気の成りたちで、関節の表面がザラザラになり、ギシギシと動いて痛みがでます。

この変形性関節症などの軟骨がすり減って痛みがでる病気には、はじめに湿布や薬の内服、ヒアルロン酸などの注射、あるいは温熱や運動療法、サポーターや装具療法が行われます。まえおきが長くなりましたが、今回の話の「人工関節」は、これらの治療で痛みがおさまらない場合の最後の手段です。すなわち表面がザ

ラザラになった関節を、手術でツルツルとなめらかに動く人工の関節に取りかえる方法です。むし歯でたとえると、こわれてかめなくなった歯を、さし歯やかぶせ物（クラウン）でかめる歯にする方法です。わが国では肩・肘・指・股・膝・足の関節に人工関節が用いられ、股・膝関節を取りかえる人工股・膝関節手術は年間あわせて十数万件も行われ、一般的な治療になっています。

人工関節は、おもに金属・セラミックス、ポリエチレンでできています。変形してザラザラになった部分を取りのぞいて、適したサイズの金属・セラミックスを取りつけ、あいだに軟骨の役目はたすポリエチレンをはめ込んで組み立てると、関節はスムーズに動きます。人工関節手術は日常生活の支障となるような痛みを取りのぞく目的で行われます。手術の直後には痛みがありますが、次第に軽くなって普通に生活する上では、なんら困ることがないほど改善します。股関節では足の長さ、膝関節ではO脚をなおすことができます。しかし、全力で投げたり走った

り、マラソンをするため、正座するため、重い物を持ち上げるために行う手術ではありません。人工関節は長きにわたって動きづづけるので、ポリエチレンに摩擦や、金属・セラミックスと骨の間にゆるみが生じることがあります。年々改良されて、使用にたえる期間はのびていますが、いずれ寿命がきます。一般的には15〜20年といわれており、人工関節手術は60〜65歳以上が対象になります。人工関節は摩擦やゆるみのほかに、感染、人工股関節の脱臼、破損や金属アレルギーがおこることがあり、問題が生じた場合には取りかえる再手術も行われています。また人工股・膝関節手術は、静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）がおこりやすく予防が行われます。

役目ははたさなくなった関節の、本来の働きを取りもどす方法は、人工関節手術しかありません。しかし、年齢と痛みや障害の程度と、手術のリスクを考えあわせた上で、行うかどうか決めることが大切です。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時〜午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
6	朝霞	関医院	内・小	465-8550	和光	村山皮膚科クリニック	皮・アレ	464-5333	
									13
20	新座	静風荘病院	内・呼内・消内・循内	477-7300	新座	かきの木整形外科医院	整外	471-8800	
									9
22	志木	福島脳神経外科・内科クリニック	脳外・神内・内	474-3000	志木	志木大腸肛門クリニック	肛・消内	423-8768	
23	朝霞	石原クリニック	消内・内・外・肛	486-1890	朝霞	北朝霞藤宮眼科	眼	474-1417	
27	志木	かまた内科クリニック	内・消内・糖内	472-7070	新座	いしもと脳神経外科・内科	脳外・内	483-7111	



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。